

令和2年度

授業改善推進プラン

令和2年11月16日

多摩市立多摩永山中学校

分析と改善策

国語 内容及び観点別の分析					
観点	国語への関心 ・意欲・態度	話す聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解
到達度	満足できる	満足できる	ほぼ満足できる	ほぼ満足できる	ほぼ満足できる
課題点	全体的に関心は高いが自主的な取り組みの質を更に向上させること。	発表するときの姿勢・態度。発表内容の質を高めること。	構成力の基本を定着させること。テーマに見合う内容を時間内に書き上げること。	読解のポイントに対する意識の向上。	漢字の読み書きを向上させること。辞書の積極的な併用。基礎的な文法力の定着。
<ul style="list-style-type: none"> ・一年生は「話す聞く能力」の向上に努める。今後はディベート形式の討論活動に力を入れていく。同時にスピーチや聞き取りテストの回数も確保する。 ・二年生ではクリティカルシンキングを中心に思考力の向上に努める。また、基礎的な学習事項の習得に特に留意し、漢字の書き取りや作文など細かい点の指導にも気を配る。 ・三年生は読解力の向上に努める。問題形式のプリント学習や作文に取り組む機会を増やす。テーマに見合う作文を時間内に書き上げる機会を設ける。 					
【改善策】 <ul style="list-style-type: none"> ・「話す聞く」に関しては、人前で話す方法を習得するため、スピーチやビブリオバトル、ディベートの回数を増やす。 ・クリティカルシンキングの場面を明確に示し、全体的な国語力の向上に努める。 ・作文の段落構成を意識して書かせることにより、より質の高い内容の文章を書けるようにする。 ・全学年で辞書を利用する機会を増やす。 ・司書と協力し、図書室を有効利用していく。 			【補充・発展指導】 <ul style="list-style-type: none"> ・発表に際しては、マッピングシートやプロットを用意して生徒に選択させる。 ・様々な字数の作文を書かせる。 ・読書活動や調べ学習の充実を図るため、司書と協力をしながら図書室を活用する。 		
【検証】					

社会 内容及び観点別の分析				
観点	社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての 知識・理解
到達度	ほぼ満足できる	やや不十分である	ほぼ満足できる	ほぼ満足できる
課題点	全体的に関心は高いが、主体的に学ぶ意欲をさらに向上させた い。	多面的・多角的な視点から考え、論理的に自分の言葉で表現する力を高めたい。	資料から有用な情報を読み取り活用する力をさらに高めたい。	単純に用語を覚えているだけではなく、その意味内容や背景も知識として定着させたい。
<p>・学習内容と身の回りの事象とを結びつけて、自ら発展的に追究したいという意欲を導き出し、持続可能な社会を築く資質を育成する必要がある。</p>				
<p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> 統計資料やグラフ、地図、年表などの資料やワークシート等を用い主体的に調べたり考えたりする活動を通して、資料活用の技能や思考力・判断力を高める。 資料に基づき実証により、多面的・多角的な視点から社会的事象をとらえる力を育成する。 グループワークやレポートの作成等の活動を効果的に取り入れることにより、自分の考えをよりよく相手に伝える経験を積み、論理的に意見をまとめて表現する力を育む。 			<p>【補充・発展指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> 既習事項の復習や発展的な学習に取り組める課題や、調べてまとめる課題に取り組む。 適切な物事の調査方法を身につけるために、学校司書と連携し図書資料を活用する。 定期テストの前に、学習教室を実施する。 	
<p>【検証】</p>				

数学 内容及び観点別の分析				
観点	数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数学・図形などについての知識・理解
到達度	ほぼ満足できる	やや不十分である	ほぼ満足できる	ほぼ満足できる
課題点	全体的に授業に意欲的に取り組んでいる。一部、授業に集中できない生徒や家庭学習が不十分な生徒の意識を高めることが課題である。	基本の知識・技能を活用する問題や応用問題において、問題を読み取ることや解き方を考えることに課題がある。	基礎的・基本的な計算についてはおおむね身に付いている。定着が不十分な生徒の計算力を高めることが課題である。	基礎的・基本的な知識はおおむね理解できている。用語の理解にとどまらず、活用できるようにすることが課題である。
<p>数学の基本的な知識・技能を身に付け、数学的な見方・考え方を働かせて問題を解決する力を伸ばし、思考力・判断力・表現力およびそれらを生かす力を育成する。</p>				
<p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> 問題集やプリント等の課題を設定し、未提出の生徒には個別に声をかける。 机間指導を充実させ、授業に集中できない生徒や苦手意識のある生徒にも配慮した授業を行う。 習熟度別少人数指導を生かし、個々の学力に応じた目標及び授業展開を工夫する。全コースにおいて引き続き基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るとともに、それらを活用して問題解決をする場面を取り入れる。特に、標準、発展コースでは数学的な見方・考え方を活用する力を育成するための問題設定および教材の工夫をする。その際、生徒が主体的・協働的に学び合う機会を設ける。 小テスト等を利用して、基本的な知識や技能が習得できているかを随時確認する。 			<p>【補充・発展指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> 小テストや宿題を活用し、基本的な知識や技能の定着をはかる。 必要に応じて、定期テスト前や長期休業中に学習教室を実施し、既習事項の確認や質問等に個別に対応する機会を設ける。 発展コースでは、必要に応じて教科書レベル以上の発展的な課題を提示し、数学的な見方・考え方を伸ばす。 	
<p>【検証】</p>				

理科 内容及び観点別の分析				
観点	自然事象への 関心・意欲・態度	科学的な思考	観察・実験の 技能・表現	自然事象に についての知識・理解
到達度	ほぼ満足できる	やや不十分である	ほぼ満足できる	ほぼ満足できる
課題点	全体的に授業、実験、観察に対し積極的・協力的に取り組んでいく。難しい問題に対しても、あきらめず挑戦する意識を高めることが課題である。	実験結果を考察し、考えをまとめることに対し慣れてきたが、論理的に考えを組み合わせられるようになるにはさらなる習熟が必要である。	実験器具の取り扱いについてはほぼ行うことができる。安全面に対する想像力を高める必要がある。	具体的な身の回りの事象と結びつけることにより、より深い理解を目指していく。
<p>・クリティカルシンキングやアクティブラーニングの手法を取り入れ、対話的な学びを行わせながら、身の回りの事象と結びつけることにより学習内容の定着を図る。</p>				
<p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数グループによる話し合い及び発表の活動をできるだけ多く取り入れるとともに、学習した事を文章で表現させ課題に対する考え方を身に付けさせることにより思考力の向上を図る。 ・実験観察（実験観察が行いづらい内容の場合は視聴覚教材）を可能な限り多く取り入れ、実物を見せると同時に身の回りの事象と結びつける。 			<p>【補充・発展指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元ごとに復習の時間を確保し、学習内容の定着を図る。 ・定期テストの前に、学習教室を行い、授業の振り返りを行う。 ・単元末に、既習事項を活用して考える発展的な内容の課題を組み込み、科学的思考力・表現力の向上を図る。 	
<p>【検証】</p>				

外国語（英語） 内容及び観点別の分析				
観点	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
到達度	十分に満足できる	やや不十分である	やや不十分である	ほぼ満足できる
課題点	関心は高いが、自信をもって取り組めるように促していく必要がある。	まとまった英文を書いたり、まとまった英文を話したりする取組を増やす。	まとまった英文の内容を読み取ったり、聞き取ったりする取組に力を入れる。	学習内容の理解はできているが、定着の度合いに差があるので、課題に取り組む機会を増やす。
<p>【総合分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識として理解していても、自信のなさから積極的な活用につながっていない。書く教材、話す教材の研究とALTの活用に重点を置く必要がある。 ・一定量まとまった英文を発信したり、受信したりする点で、量の多さから苦手意識を強く感じる様子が見られる。帯活動を通して、負担感なく取り組めるようにする必要がある。 				
<p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペア活動やグループ活動での助け合いを通して、まとまった英文を書けるような活動をする。 ・ALTを活用し、パフォーマンステストを年複数回実施する。 ・一定量の英文を読んで内容を理解する帯活動を工夫する。 ・スムーズなやり取りを目標に、会話練習シートの活動を継続して行う。 			<p>【補充・発展指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期テストの前に、質問教室を実施する。 ・朝学習を活用して、基礎的知識の定着を図る。 	
<p>【検証】</p>				

音楽 内容及び観点別の分析				
観点	音楽への 関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
到達度	ほぼ満足できる	やや不十分である	ほぼ満足できる	やや不十分である
課題点	全体的に関心は高く、主体的に行動できる。歌唱活動や鑑賞に関して、意欲的に取り組めない生徒への指導の工夫が必要である。	音楽を形づくっている要素について理解し、それを活かしてどのように表現を自分なりに工夫するかが難しい。	正しい発声法が安定してきている。しかし、表現の技能に自信が持てない生徒や歌唱活動において変声期を迎えた生徒への指導の工夫が必要である。	作曲者の時代背景や人物像においてさらに深い理解が必要である。音楽を形づくっている要素や知識に基づき、自分の言葉で相手に言葉や文章で伝える力を伸ばしていきたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・表現活動に対して自信のない生徒が、少しずつ自分の表現を伸ばしていけるように活動内容の工夫を行う必要がある。 ・言語活動の充実を図り、自分の言葉で相手に伝えることのできるスキルを身に付けさせたい。 				
【改善策】 <ul style="list-style-type: none"> ・表現の苦手な生徒が自分の表現に自信が持てるように活動の内容を段階的にするなどの工夫や、言葉かけを大切にしていく。 ・自分が感じたことを言葉や文章で表現できるように、自分のイメージや思いを伝えあったり、他者の意図に共感したりできるように小集団（パートごと）の活動を授業に多く取り入れていく。 			【補充・発展指導】 <ul style="list-style-type: none"> ・パート活動で、表現の苦手な生徒の個別指導を実施していく。 ・より自分の表現を磨いていけるように表現するための基礎基本の知識・理解を徹底する。 	
【検証】				

美術 内容及び観点別の分析				
観点	意欲・関心・態度	想像や構想の能力	創造的な能力	鑑賞の能力
到達度	ほぼ満足できる	ほぼ満足できる	ほぼ満足できる	やや不十分である
課題点	全体的に作品制作への意欲・関心は高い。見通しをもって計画的に制作できるようにする。	個々の発想に加え、他者からの発想も取り入れるようにしたい。	基本的な技能を踏まえた上で自分らしい表現方法を工夫できるように高めていきたい。	語彙力を増やし、言葉による表現活動の場を増やし、描写力をつける。
<ul style="list-style-type: none"> ・3年間を通して基本的な技術を応用し表現の工夫をさせる課題を設定していく。 ・各課題で、個々に制作目標をつくり見通す力を養っていく。 				
【改善策】 <ul style="list-style-type: none"> ・「わかる」「できる」をより実感でき、計画的に物事を進めるため、スモールステップ方式で指導を行っていく。 ・発想のための資料の充実を図る（図書室利用など）。 ・集中力をつけるために5分スケッチを実施する。 ・描写力をつけるために、アイデアスケッチだけではなく言葉でも表現するようにする。 			【補充・発展指導】 <ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて、放課後の指導をする。 ・日頃から重要な点は授業内で繰り返し確認して定着できるようにする。 	
【検証】				

保健体育 内容及び観点別の分析				
観点	運動や健康・安全への関心・意欲・態度	運動や健康・安全についての思考・判断	運動の技能	運動や健康・安全についての知識・理解
到達度	ほぼ満足できる	やや不十分である	ほぼ満足できる	ほぼ満足できる
課題点	全体的に関心は高いが、受け身の生徒に対する工夫が必要である。	自己の課題は理解している。その解決方法や過程を言語化して考えていくことの工夫が必要である。	技を身につけることはできる。それをゲームや発表で、より発展させていく機会を増やしていく。	技能と理論の一体化を図る。 身に付けた知識を日常生活に生かせるように指導していく。
<p>・ 時事的な内容の観点から、オリンピックに関する話題を取り入れながらそれぞれの種目を学ばせることを意識した指導をしていく。そのことにより、より運動への関心を高め、さらなる技能向上を目指す。</p>				
<p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グループ活動を通して、自己やグループの課題に気づき、解決方法を互いに見つけながら学習ができるようにしていく。 ・ 学習カード等を活用し、課題解決に向けて、主体的に取り組めるようにする。 ・ 保健分野との関連を意識し、心と体を一体として捉えた授業を展開し、実生活に生かせるようにする。 			<p>【補充・発展指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グループ活動で調べ学習をする際に個別に声かけを積極的に行っていく。 	
<p>【検証】</p>				

技術・家庭科 内容及び観点別の分析				
観点	生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し 創造する能力	生活の技能	生活や技術に についての知識・理解
到達度	ほぼ満足できる	やや不十分	やや不十分	ほぼ満足できる
課題点	特に食生活や幼児の分野について関心をもって授業に取り組んでいる。住生活や消費生活にも自身の生活と結びつけて意欲的に学習できるように指導していく。	学んだ知識や技術を日常の生活の中で自分なりに工夫し、積極的に生かすことができるように、指導していく。そのために授業で学んだことがどのように実生活に結びつくか実践的・体験的にわかるような授業展開をしていく。	実習に関して興味・関心のある生徒が多い反面、技術面では習得に時間がかかる生徒が多い。実習を通して得た技術を、実生活に生かす楽しさや充実感を感じさせたい。また、実習の仕方についても検討が必要である。	実践的・体験的な学習を通して、自立した生活に必要な基本的な知識を身に付けさせる。小テストや学習ノートをうまく取り入れることで、知識が定着する傾向があるので続けていく。
<ul style="list-style-type: none"> ・技術面では、一人一人の進度に気を配り声かけを心がけるなど、学習支援の方法を工夫する。 ・実習では常に安全な作業ができるよう、教室環境を整え、計画的に授業を進める。 				
【改善策】 <ul style="list-style-type: none"> ・実生活と結びついた知識や技術を習得することで、自分自身の生活に意欲的に生かそうとする態度を育てる。その際には自分なりの工夫を多面的・多角的に考えさせ、本当にこれでよいのか、実生活の振り返りを通して常に考えられるような授業に努める。 ・班活動など小集団での話し合いや助け合い活動を通して、発言する機会を増やす場面の設定をする。 ・忘れ物に関しては、安全面・衛生面と関連させた指導を徹底する 			【補充・発展指導】 <ul style="list-style-type: none"> ・問題解決型の学習形態に努め、興味関心に応じた取り組みができるよう、課題の出し方を工夫する。 ・創意工夫や技能に優れている生徒の作品や課題を見せ、多面的・多角的に考えさせるなど学習意欲を高められるようにする。 	
【検証】				